

KOGA IDOL

今月の古河っ子

いいこが育つ古河



大内 榛くん

(平成28年10月生まれ・尾崎)

好奇心旺盛でイタズラ大好き！
元気いっぱい大きくなってね！
(父：一馬、母：香)



小島 遥希(左)くん・奈々美(右)ちゃん

(平成28年9月生まれ
平成30年1月生まれ・坂間)

2人で仲良く育ててね！
(父：淳、母：英美)



下村 郁織くん

(平成29年2月生まれ・駒羽根)

可愛い笑顔でみんなを癒やしてくれます。明るく元気に育ててね♥
(祖父：太一、祖母：ひとみ)

お子さんの写真を募集中！ <対象> 0~3歳の市内在住のお子さん <応募方法> メール・電話で受付中。メールのタイトルを「今月の古河っ子応募」とし、本文に「お子さんの氏名(ふりがな)・生年月日・父母の氏名・住所・電話番号」を明記し、hisho.kouhou@city.ibaraki-koga.lg.jp(☎秘書広報課)へ申し込みください♪



わたしの夢

夢に向かって

関喬太さん 駒込小学校6年生

僕の将来の夢はプロサッカー選手になることです。幼い頃からボールを蹴って遊ぶことが好きで、いつの間にかサッカーが大好きになりました。

サッカー選手になるために、地域のスポーツ少年団に所属し、1年生の頃からこれまで大変な練習にも一生懸命取り組んできました。

今年は中学生になります。中学校でも、辛いことがあってもあきらめず、大好きなサッカーを仲間とともに頑張っていきたいです。



キラリ☆輝く人たち

幅広い世代に愛される日本酒を

青木知佐さん(本町・29歳)

1831(天保2)年に創業し約190年の歴史を誇る青木酒造。その造り酒屋を継ぐ青木さんが取り組むのは、20代の若者のみで作上げる日本酒「二才の醸」プロジェクト。

世界で認められている日本酒を若い世代の人たちにも飲んでもらうため、来月上旬の販売を目指し、活動を行う青木さんに日本酒にかける思いやこれからの目標について伺いました。



全てが初めての連続

大学卒業後、看護師として、埼玉県内の病院で勤務していた青木さん。2013年に両親から家業を手伝ってほしいと相談され、両親の支えになれればと思い家業を継ぐ決心をしました。

造り酒屋の娘として生まれても日本酒を飲んだことはなく、知識が全くなかったため、毎日が新たな発見続きでしたと笑いながら話します。

日本酒の知識は、青木酒造で働く南部杜氏の管内さんから教わりました。そうした中で、米と水だけで作る日本酒の魅力やおもしろさを感じたそうです。

知れば知るほど魅力的な日本酒に対し、若者はあまり良いイメージを持っていないと感じるようになります。そしてそのイメージをどうにか変えたいと強く思うようになっていきました。

新たな出会いと挑戦

青木さんは、埼玉県幸手市にある石井酒造を26歳で継いだ石井誠さんとの出会いに

よって新たな一歩を踏み出します。石井さんは、若者にはなじみがない日本酒であっても、同じ世代が作っているものであれば興味を持ってもらえるのではと考え、20代だけで造る「二才の醸」というプロジェクトを立ち上げました。その思いに共感した青木さんは「二才の醸」醸造の3代目に任命されました。そして、日本酒造りの世界に20代の若者だけで挑戦することになったのです。

仲間とともに一歩を踏み出す

「二才の醸」を醸造する唯一の条件は、20代のみで造ると



▲作業を終え仕込みタンクの前で参加者と記念撮影

いうこと。青木酒造で働く20代は青木さんだけだったため、筑波大学の学生たちとプロジェクトチームを作り取り組むことになりました。ここでは、大学生としてやりたいこと、酒蔵としてやりたいことを調整しながら、目標を達成するためにしっかりと話し合ったと言います。

製造責任者として青木さんがこだわったのは、古河の原材料と、その生産工程に自ら携わることでした。市内の農園に協力してもらい茨城県のブランド米「ふくまる」の田植えから稲刈りまでを一緒にやり、精魂込めて育てた米で日本酒を仕込むことができました。

また、SNSなどで参加者を募集していく中で驚いたのは、地域の人たちが日本酒造りに興味を持ち、毎回多くの人に参加してくれたことだと言います。

これからも、古河にある地酒を多くの人に知ってもらい、まちの誇りと思ってもらえるような魅力的な酒蔵にできるよう、頑張っていきたいと話す瞳は輝いていました。